

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	佐倉病院内科:専門性と総合力を有する内科医の育成を目指して
別タイトル	Internal Medicine (Sakura): Attempts to educate physicians with expertise and comprehensive
作成者(著者)	鈴木, 康夫
公開者	東邦大学医学会
発行日	2013.03
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 60(3). p.178 179.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	教室(診療科)紹介
著者版フラグ	publisher
JaLCDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.60.178
メタデータのURL	https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD00141740

教室(診療科)紹介 (86)

専門性と総合力を有する内科医の 育成を目指して

東邦大学医療センター 佐倉病院内科

教授：鈴木康夫
龍野一郎
野池博文
准教授：榊原隆次
講師：齋木厚人
岸 雅彦
高田伸夫
竹内 健
医局長：清水一寛

佐倉病院内科(以下、内科)は主任教授：鈴木康夫、医局長：清水一寛を中心に、専門分野に対する深い洞察力を習得し先進医療の実践できる専門医を育成することを目的にすると同時に各種内科疾患を広く理解し総合力を有する内科医の育成をめざした医局運営を行う、大学臨床科とし

て現在では貴重な総合内科である。内容は、呼吸器アレルギー班(A)、糖尿病内分泌代謝班(B)、循環器班(C)、消化器班(D)、神経内科班(E)という専門分野班とともに、総合診療と同時に救急医療の対応を目指す総合診療班(F)の6班により形成されている。総合診療班(F)は機能的集団として各5専門分野の医局員全員の協力に基づき運営され、佐倉病院全体の総合診療・内科系救急診療の中核を担っている。

診療内容

内科の構成員はA班11人、B班10人、C班11人、D班18人、E班4人、教授3名、准教授1名、講師4名、助教25名、大学院生5名、レジデント11名で構成され、その他非常勤8名が所属している。現在、内科全体で当院451床のうち約38%の病床を運営し、当院1日平均外来数約1500人のうち約50%近くが内科各専門診療科を受診している。

1. 呼吸器班

松澤助教を中心に肺癌を中心とした各種呼吸器疾患の診療を行い県内最大患者数の診療実績であるが、中でも間質性肺炎に対する診療は患者数とともに診療内容も県内トップの呼吸器診療科に発展している。また、アレルギー、膠原病疾患も診療している。

2. 糖尿病内分泌代謝班

龍野教授を中心に、県内最大の外来患者数を抱えている。糖尿病、肥満症には、低糖質高蛋白、フォーミュラー食利用を全国に先駆け実施している。また、肥満外科治療に関しても、術後のフォローを内科が行うシステムを構築、わが国肥満外科治療のモデルを提唱している。佐倉内科が開



平成24年度佐倉内科例会集合写真：特別講演講師鄭先生を中心に

発の中心となった血管弾性能を反映する新規検査法 cardio-ankle vascular index (CAVI) の有用性を世界に向けて発信し始めている。

3. 循環器班

野池教授を中心に、冠動脈の診断と高度な血管形成治療、心不全治療、心疾患と睡眠時無呼吸症候群、CAVIと心疾患などに新しい知見を得つつ、循環器診療における地域中核の役割を果たしている。また、新規治療法として注目される和温療法による心臓リハビリの実績も積み重ねつつある。

4. 消化器班

鈴木教授を中心に、炎症性腸疾患では既に全国有数の診療センターになっている。検査領域では上部・下部内視鏡検査に加え小腸内視鏡検査も充実し、世界的に注目されている消化管診断法である CT/MRI enterography も開始された。内視鏡治療では早期胃癌粘膜剥離術の実績が順調に伸びている。また、各種肝疾患診療では肝癌の内科的・観血的治療を行い、C型肝炎治療では地域の中核病院となっている。

5. 神経内科班

榊原准教授を中心にパーキンソン病・脳梗塞や各種神経変性疾患と幅広く診療しているが、さらに神経疾患に伴う膀胱・排便機能障害などや認知症外来を開設し、地域からの信頼を増している。

研究

それぞれの専門分野における疾病の病態解明とともに新たな治療学の構築をめざし、細胞培養、生化学、分子生物学的的手法といった基礎的手法を駆使し発展させている。海外一流誌への論文掲載を基準にした学位取得者を例年、各専門分野から絶やすことなく生み出している。

おわりに

教職員へは私のモットーとして、世界最高レベルであると同時に患者目線の診療を実践できる内科医であることをめざし“志は高く、目線は低く”と伝えている。

(教授：鈴木康夫)